

山口 憲二 講師

【やまくち けんじ】

経済学部非常勤講師

1955年京都生まれ。神戸商科大学（現兵庫県立大学）卒業。松下電工㈱等勤務を経て群馬大学大学院社会情報学研究科修了。現在の本務校は新潟学園短期大学キャリアデザイン学科。関西から群馬県に来て20年。



●キャリア・デザイン
●コンピュータ・リテラシー

経済学部で「キャリアデザイン」と「コンピュータ・リテラシー」の2科目を担当している。

「キャリアデザイン」は各自の生き方を、主として職業生活の面から考え、学生時代の学びを、より意義あるものにするよう刺激を与えるのが、教える側の意図した目的である。

そのために、キャリア（career）というものの本質を探り、現代の産業社会、企業組織の中における仕事の実際を説明し、その上で、各自がキャリア観を構築することの重要性に気付くよう、手を変え、品を変え講義する。

有名な話がある。

「ディズニーランドのレストランに若い夫婦が来た。2人はそれぞれの注文に加えて、お子様ランチを注文した。ウェイトレスが怪訝そうな顔をしたので、2人は事情を説明した。今日は亡くなった子供の誕生日で、生前、今度の誕生日はこのレストランで食事することを約束していたと。ウェイトレスはすぐに事情を理解し、2人の間に子供用の椅子を配置し、どうぞ楽しいお誕生日を、と言った。」

さてウェイトレスの仕事とは何か。粗相の無いように食事を提供することか、メニューについての正確な知識を知っていることか。実はこのレストランでは、大人にはお子様ランチを出さないことになっていた。

教員はこの話で、学生に仕事の本質を考えることの重要性を気付かせることを意図している。企業の中にはさまざまな仕事がある。たとえば一口に営業職といっても企業によって実に多様である。単に「商品を販売する」とは言えない。学生に人気の公務員というのは、本当はどのような職業なのだろうか。「公務員になりたい」というキャリア目標は正しいのだろうか。本当は、「〇〇がやりたいから公務員になりたい」というのが正しいのではないだろうか。

「キャリアデザイン」はこのように、ほとんどの学生が今まで考えたことのないような、自分のキャリア観というものと向き合う機会と知識と刺激を提供する。

先のレストランの話に戻る。

教員の意図は仕事の本質を考えることであったが、マーケティングに関心のある学生なら、サービス業における顧客満足というテーマに関連付けて捉えるかもしれない。また、人的資源管理に興味があるなら、そのような従業員の行動を生み出す組織文化や従業員の採用や教育の問題として捉えるかもしれない。

こういう講義が意図していない学びというものも大事である。大学とは、そういう環境である。ただし、そういう刺激をキャッチするアンテナの準備は、自分自身でやるしかない。

大学とは刺激・環境
——意図した学びと意図しない学び